

「移り舞」という言葉がある。古語辞典によれば、「誰かの舞をまねて、あるいは誰かの身になり変って舞うこと」とある。とすれば、子どもたちが身につけていく日常的な生活行為のあれこれは、「移り業」と呼ぶことも可能であろうか。いつか身につけてしまふ母親そっくりのしぐさは、前者の例であらうし、「ままたごと」で演じてみせる母親そっくりのふるまいは、後者の場合かも知れない。

「移り」は、「写・移」の自動詞形であつて、「顕現」と同根であると言う。ものの形や内容が、そっくりそのまま、他のところに現われることなのだ。

文化の伝承とは、それが、上手く「移り得た」結果、次の世代にそっくりそのまま出現する、と言うことにならうか。こう見てくると、個体の成長に関しても、或いは人類の歴史を例にとつても、「移る」という現象は、その特性を説明

する重要な鍵であると言えそうである。

今月は、「うつる」というテーマで、幾つかのエッセーを集めてみた。新学期が始まると、子どもたちの生活は、新しい場へと「移る」。例えば、新しい幼稚園に、或いは、新しい組の新しい部屋に、新しい先生や友人と出会うことで、人間関係の移行もあらう。

大きい組になつて部屋が変わつても、子どもの生活が変わらないとすれば、それは、主要なものが「移り得た」結果かも知れない。大きく変貌したとすれば、それは、「移る」の類義語「変る」の力が強かつた、と言うことであらうか。

移行したことで、何が「そのまま持ち越され」、何が「別のものに」変わるのだろうか。夏休みを間に挿むことで、子どもらの生活が、どのような「移り変り」を示すのか、興味深く思われる。

(本田 和子)

幼児の教育 第八十巻 第七号

七月号 © 定価二七〇円

昭和五十六年六月二十五日 印刷

昭和五十六年七月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 発行人 津 守 真

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

© 本誌御購読についての御注文は発売所

フレーベル館にお願いします